

7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点を活用した留学生の戦略的な獲得

アジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシア及びタイに開設した海外オフィスを拠点として様々な交流活動を展開している。

インドネシアオフィスに関しては、非営利法人として認定されている本学インドネシア同窓会(INAA)との連携協力により、平成31年4月にボゴール農科大学主催の就職・留学フェアにブース出展し、約200人の来訪者にインターンシップ制度や奨学金制度等について説明を行い、新たな本学入学者の発掘に取り組んだ。

タイオフィスに関しては、令和元年7-8月にタイオフィス長がオフィスを拠点として本学学術交流協定校(カセサート大学、チェンマイ大学)において学生募集説明会やインターンシップの調整等の学生募集活動を実施し、インターン生の受入増加と優秀な正規留学生の獲得につながった。また、JASSO日本留学フェア(インドネシア、タイ、ベトナム、中国)のほか、マレーシアでのPostgraduate Education Fairへの初の参加や学術交流協定校訪問を通して、優秀な留学生の確保とインターン生の受入増加に取り組んだ。その結果、令和2年4月現在の留学生数は282名(世界33国・地域)となった。



〈 JASSO日本留学フェア:タイ 〉

ガバナンス改革関連

○ UEAの配置による国際化支援体制の強化

平成29年度に確定した新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)に基づき、令和2年1月に教育連携部門においてUEA(国際戦略担当)を新たに1名採用し、平成30年度に採用した2名のUEA(国際交流担当、留学生・外国人研究者支援担当)とともに、長期的視点で国際展開、留学生・外国人研究者支援を行う国際化支援体制の強化を図った。

教育改革関連

○ 教員向け海外・国内FD研修等の実施

令和元年9月にカリフォルニア大学デービス校から講師を招聘し、国際FDセミナー「理系授業における学生中心型教授法(SCT)と課題解決型学習(PBL)の導入」を開催した。また、海外FD研修参加教員を対象とした同講師による英語講義の外部評価を実施し、研修参加教員の英語講義に関する知見と能力を向上させることができた。11月には海外FD研修として、カリフォルニア大学デービス校をはじめとする北米の大学へ教員4人を派遣し、教授法や学生の学修意欲向上に関する実践的方法論、ラボステイによる研究指導法や研究室運営方法論を調査した。帰国後は全教職員・学生を対象に海外FD研修報告会を実施し、成果を共有した。



〈 海外FD研修 〉

令和2年3月に2日間にわたるFD研修兼グローバルリーダー養成模擬講義を開催した(教育推進機構企画)。北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)より講師を迎え、アクティブラーニングの構築とその効果について紹介があった。続いて、パネルディスカッションでは、本学のPBLの授業の紹介と今後のアクティブラーニングやPBLの方向性や可能性について意見交換が行われた。2日目には、JAISTで英語により行われている「グローバル・リーダーシップ養成特別演習」の模擬授業を本学学生を対象に実施した。本学の日本人学生、留学生にとって、ディスカッションを中心とした学生参加型授業は新鮮であり、本学での導入を期待する声が上がった。



〈 白熱教室! 〉
「グローバルリーダーシップ模擬授業」

○ 1研究科体制での英語教育の強化

学生の英語力強化の目安となるTOEIC試験を複数回実施し、語学レベルの測定・把握に努めた。英語力強化に向けた施策として「プロフェッショナルコミュニケーション特別強化学生制度」を実施した。本制度のTOEIC対策講座により、特別強化学生113名中69名が目標スコアを突破した。新たに、全学規模の海外英語研修プログラムを企画し、ハワイ大学マノワ校において本学の英語強化プログラムにカスタマイズされた4週間の研修を実施した。



〈 ハワイ英語研修 〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 全学キャリアパス支援

学生のグローバルな視野拡大を目的として、海外展開に積極的な企業の研究所訪問や多様な説明会を実施した。日本人学生向けには、「志醸成セミナー」では、グローバル規模での活躍に向けたキャリアビジョン形成の推進を目指した。さらに、海外企業との連携による研究インターンシップを新たな開拓し、博士後期課程の日本人学生1人をアメリカ・カリフォルニア州の企業に約2カ月にわたって派遣した。留学生向けキャリア支援として、新たな取組として、修了留学生とのキャリア交流イベント「Career Meeting with Alumni」を開催し、実際に日本の企業で働いているOBOG留学生との交流により、日系企業就職に向けた意識を高めることができた。



〈 企業研究所訪問 〉



〈 志醸成セミナー 〉



〈 Career Meeting with Alumni 〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)

○ 留学生の日本語能力強化

日本企業の多くが求める日本語能力試験N2～N1 レベルの日本語能力を育成するため、平成29-30年度に留学生への就職支援・キャリア支援として実施していた「日本語能力試験対策講座」を、令和元年度からは正規科目の「日本語V」として開講した。その他にN5～N3 に対応した「日本語I - IV」を設置することで、正規のカリキュラム内で幅広い日本語教育を行える体制とした。正規科目以外にもボランティアによる日本語講座を活用し、留学生とその家族の日本語教育を行った。

○ ダブルディグリープログラムの取組の強化と実質化

ダブルディグリープログラムについては、3件の新規締結(ソルボンヌ大学、マッコリー大学、チュラロンコン大学)により協定先の拡充を図るとともに、これまでの交流実績を踏まえて2件の終結(ユニテック工科大学、マラヤ大学)を実施することで本学ダブルディグリープログラムの実質化を図った(令和2年4月現在:7件/5国・地域)。また、博士前期課程学生を対象としたダブルディグリープログラムの設置に向けてカセサート大学(タイ)との交渉・調整を開始した。

○ 日本人学生の長期海外留学促進に向けた施策

日本人学生を対象に、ダブルディグリープログラムをはじめとする海外の大学・研究機関等への中長期研究留学を経済的に支援する「長期留学支援事業」を令和元年12月に策定し、令和2年からの事業実施に向けて準備を行った。本学が推進する海外留学制度を広く学生に周知するためにポスター・チラシを作成し、研究科棟での掲示・各研究室への配布を行った。



〈 海外留学広報ポスター 〉

